

医学教育分野別評価
岐阜大学医学部医学科

年次報告書
2018年度

評価受審年度2015（平成27）年

平成30年8月

岐阜大学医学部



**医学教育分野別評価 岐阜大学医学部医学科 年次報告書
2018年度**

評価受審年度 2015（平成 27）年

改善した項目

2. 教育プログラム	2.1 カリキュラムモデルと教育方法
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
・テュートリアル教育は、課題発見・課題解決能力の涵養をさらに目指すべきである。	
改善状況	
<p>現行のテュートリアル教育の在り方と見直しを検討するため、教務厚生委員会の下にテュートリアル教育改善対策作業部会を発足させ、作業部会を開催した。</p> <p>また、テュートリアル教育のより効果的な方策を検討するために、学生、教員、卒業生、事務職員に対してアンケート調査を行った。</p> <p>（提出期限：平成 30 年 8 月 10 日）</p>	
今後の計画	
<p>平成 30 年 9 月中に、当該アンケート結果を取りまとめ、カリキュラム委員会や教授会に提示し、その後教務厚生委員会及びカリキュラム委員会を中心に方針（改善）案を構築する。今後の方針として 2020 年度授業案内に新カリキュラムを掲載できる日程で議論を進めることとしている。</p>	
改善状況を示す根拠資料	
<p>資料 1 第1回及び第2回テュートリアル教育改善対策作業部会記録</p> <p>資料 2 テュートリアル教育に関するアンケート（学生、教員、卒業生、事務職員）</p>	

2. 教育プログラム	2.3 基礎医学
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
・テュートリアル教育のさらなる進歩を求めるべきである。	
改善状況	
<p>現行のテュートリアル教育の在り方と見直しを検討するため、教務厚生委員会の下にテュートリアル教育改善対策作業部会を発足させ、作業部会を開催した。また、テュートリアル教育のより効果的な方策を検討するために、教員、卒業生、事務職員に対してアンケート調査を行った。</p>	
今後の計画	
<p>平成30年9月中に、当該アンケート結果を取りまとめ、カリキュラム委員会や教授会に提示し、その後教務厚生委員会及びカリキュラム委員会を中心に方針（改善）案を構築する。今後の方針として2020年度授業案内に新カリキュラムを掲載できる日程で議論を進めることとしている。</p>	
改善状況を示す根拠資料	
<p>資料1 第1回及び第2回テュートリアル教育改善対策作業部会記録 資料2 テュートリアル教育に関するアンケート（学生、教員、卒業生、事務職員）</p>	

2. 教育プログラム	2.4 行動科学と社会医学および医療倫理学
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
・臨床実習中に行動科学、社会医学及び医療倫理学の学習機会を作るべきである。	
改善状況	
<p>臨床実習中には、学生に対して患者の生活習慣や疾病予防・再発予防、医療倫理面についても考察するように指導している。なお、小児科ローテーション中にアドバンストな医療面接実習を行って（MEDC 担当）、その中で医師患者関係や医療倫理に関わる実践的な指導を行っている。また、各診療科において、医療倫理に関する指導を行っている。</p>	
今後の計画	
<p>臨床実習期間中の臨床講義の時間を活用し、臨床実習中に経験した行動科学、社会医学及び医療倫理学に関わる問題を共有し解決法を考える全体セッションを設けることとする。</p>	
改善状況を示す根拠資料	
資料3 2017授業案内（臨床実習）下巻(P93-94)	

2. 教育プログラム	2.5 臨床医学と技能
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
・臨床実習について、ローテート期間及び実習内容を充実させ、医師育成推進センターによる管理体制を整備し、各診療科の診療参加型の教育内容のレベルを確保すべきである。	
改善状況	
2015－2016 年度に教員による各診療科での実習内容を具体的に発表してもらう機会を作り、それに対してディスカッションを行った。2017 年度は実施しなかったが、今年度は実施する予定で計画している。	
今後の計画	
医師育成推進センターで、各診療科から見学・講義型実習と診療参加型実習の具体的な内容を、実習のスケジュール表とともに提出してもらい、後者が 50%以上の時間になっているかを確認する。なっていない場合には、該当診療科に改善を促す。	
改善状況を示す根拠資料	
発表に係る会合通知を今後作成予定	

2. 教育プログラム	2.5 臨床医学と技能
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
・臨床実習では、重要な診療科で学習する時間を十分確保すべきである。	
改善状況	
現状、臨床実習における診療科のローテーションに係る時間が飽和状態であり、新たに時間を確保することが難しいため、対応が困難な状態である。	
今後の計画	
今後、実習に係る各診療科の時間配分を見直すことを検討する。	
改善状況を示す根拠資料	
資料4 臨床実習に係る診療科ローテーション表	

2. 教育プログラム	2.5 臨床医学と技能
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
・臨床実習中に行動科学、社会医学および医療倫理学の学習機会を作るべきである。	
改善状況	
臨床実習中には、学生に対して患者の生活習慣や疾病予防・再発予防、医療倫理面についても考察するように指導している。なお、小児科臨床実習ローテーション中にアドバンストな医療面接実習を行って（MEDC 担当）、その中で医師患者関係や医療倫理に関わる実践的な指導を行っている。また、各診療科において、医療倫理に関する指導を行っている。	
今後の計画	
臨床実習期間中の臨床講義の時間を活用し、臨床実習中に経験した行動科学、社会医学及び医療倫理学に関わる問題を共有し解決法を考える全体セッションを設けることとする。	
改善状況を示す根拠資料	
資料3 2017授業案内（臨床実習）下巻(P93-94)	

2. 教育プログラム	2.5 臨床医学と技能
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
・患者安全に配慮し、臨床実習前および臨床実習中にシミュレーターを用いた教育を充実すべきである。	
改善状況	
総合内科（心音・肺音・上部消化管内視鏡シミュレーター）、小児科（腰椎穿刺、SPによる臨床推論）、アドバンスト医療面接（説明・告知・難しい患者など）は従来から実施してきたが、さらに縫合（外科）、眼底・腰椎穿刺（神経内科）、気管挿管（救急）などを拡充している。	
今後の計画	
使用していないシミュレーターが複数スキルス・ラボにあるため、その情報公開を行い、複数の診療科での臨床実習に取り入れて活用してもらうことによって、参加型実習を促進する。	
改善状況を示す根拠資料	
資料5 スキルス・ラボ設置のシミュレーター等一覧	

2. 教育プログラム	2.7 プログラム管理
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
・カリキュラム委員会あるいは教務厚生委員会に学生の代表を含むなど、カリキュラムに関する学生の意見を取り入れる体制を構築すべきである。	
改善状況	
カリキュラム委員会に各学年代表者の出席を求め、オブザーバーとして意見交換を行い、学生の意見をカリキュラムへ反映させる取り組みを開始した。また、カリキュラム委員会の正規委員として、医学科学生を追加するよう医学部医学科カリキュラム委員会細則の改正（案）を作成し、今後、細則の改正に向けて手続きを行うこととする。	
今後の計画	
カリキュラム委員会の委員構成として、学生を正規委員に追加するよう医学部医学科カリキュラム委員会細則の改正を予定している。	
改善状況を示す根拠資料	
資料6 岐阜大学医学部医学科カリキュラム委員会細則	
資料7 岐阜大学医学部医学科カリキュラム委員会細則の一部改正について（案）	
資料8 第3回医学科カリキュラム委員会 H29. 11. 29	

2. 教育プログラム	2.8 臨床実践と医療制度の連携
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
・ 医師育成推進センターの役割と権限を明確にすべきである。	
改善状況	
<p>医師育成推進センターの業務はセンター規程に明記されており、臨床実習・初期臨床研修支援部門と専門医研修支援部門があり、卒前臨床実習、初期臨床研修、専門医研修のプログラム作成・運営・管理を担っている。PccOSCE でも独自課題の作成や評価も行っている。</p> <p>また、臨床実習前の OSCE は、医学教育開発研究センター（MEDC）で、実習後の PccOSCE については医師育成推進センターにおいて実施するとして、役割分担を図った。</p>	
今後の計画	
<p>臨床実習の参加型実習への促進を目的としたアクションプランを構築し、各診療科の臨床実習の評価と改善に取り組む。学生からの評価に重点を置き、毎年最も改善が見られた診療科を表彰し、その内容を全診療科に周知する。</p> <p>OSCE 及び PccOSCE の役割分担について、今後規程化を検討する。</p>	
改善状況を示す根拠資料	
<p>資料9 岐阜大学医学部附属病院医師育成推進センター規程</p> <p>資料10 平成30年度Post-CC OSCE実施要領（抜粋）</p>	

3. 学生評価	3.1 評価方法
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
・実施している評価方法の比重や合格基準など、その内容を広く開示して学生評価の透明性を高めるべきである。	
改善状況	
<p>授業案内（テュートリアル）上巻（1年～4年生用）に記載されている評価方法の見直しに着手した。</p> <p>平成29年11月の授業案内原稿作成依頼に際して、平成30年度授業案内（上巻）には、明確な評価基準及びオフィスアワーに関する記述を掲載するように、各授業担当者へ依頼した。また、平成30年度3月に、成績評価に対する異議申立として、不合格科目についての異議申立期間を設け、対象者へ通知した。</p> <p>平成31年度授業案内（上巻）作成に際しては、明確な評価基準の掲載を徹底するため、授業案内作成開始に先立って、評価基準に関する部分のみ、7月末に授業担当者へ原稿作成を依頼した。</p>	
今後の計画	
異議申立制度については、今後規程等の整備を行うこととする。	
改善状況を示す根拠資料	
<p>資料11 平成30年度授業案内（上巻）作成時のお願い</p> <p>資料12 医学科科目異議申立書</p> <p>資料13 授業案内（上巻）の評価基準の明確化について（依頼）</p>	

3. 学生評価	3.2 評価と学習との関連
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
・教育内容とその成果を測定するために、教育成果の評価を確実に実施すべきである。	
改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・臨床能力の総合的評価の一環として、教員による臨床実習ポートフォリオの評価を平成 29 年 11 月から開始した。また、医学教育 IR 室を設置したことに伴い、卒業生の学修成果の分析と卒業生の到達目標達成度アンケートを平成 29 年 3 月から実施した。 ・PccOSCE（トライアル）を平成 30 年 7 月に実施した。 ・本年度から 6 年生と 5 年生を対象として、医学部統合試験を 9 月に実施する予定である。 	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・PccOSCE（トライアル）を検証し、改善点を洗い出す。 <p>今年度から卒業試験を総合試験方式として、9 月中旬に 5・6 年生同時に受験させ、能力の向上を分析する。</p>	
改善状況を示す根拠資料	
<ul style="list-style-type: none"> 資料10 平成30年度Post-CC OSCE実施要領（抜粋） 資料14 ポートフォリオ評価審査会、学生面談の記録 資料15 卒業生の到達目標達成度アンケート 資料16 統合試験の実施について（通知） 資料17 平成30年(2018年)度カリキュラム 	

3. 学生評価	3.2 評価と学習との関連
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
・科目ごとに行なわれている評価を総括的に管理して解析するシステムを構築すべきである。	
改善状況	
各科目の評価結果は、IR 室で集計解析する体制を構築した。	
今後の計画	
解析結果を逐次、各委員会・教授会に報告して改善を図る。	
改善状況を示す根拠資料	
資料18 医学教育IR室データ取得の流れ	

3. 学生評価	3.2 評価と学習との関連
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
・経年的、段階的に形成的評価やフィードバックを用いて学生ひとり一人の学習を促進すべきである。	
改善状況	
臨床実習ポートフォリオに、教員からの形成的評価が記載されるようになった。	
今後の計画	
今後、低学年から継続的にフィードバックできるシステムを構築する。	
改善状況を示す根拠資料	
資料19 臨床実習ポートフォリオ記載例	

4. 学生	4.3 学生のカウンセリングと支援
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
・里親制度は医学生の人的成長を見守るように機能させることが適切であり、そのための体制と機能を見直すべきである。	
改善状況	
平成30年3月末で定年退職教授の分野については、教授が決まるまで准教授が指導教員を担った。	
今後の計画	
教務厚生委員会において、引き続き、里親制度の改良、各種支援体制の改善等について、検討していくこととしている。	
改善状況を示す根拠資料	
資料20 平成30年度指導教員（里親制）について	

4. 学生	4.3 学生のカウンセリングと支援
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
・学生相談室や健康管理センターへのアクセスをより容易とする体制の整備をすべきである。	
改善状況	
初年次セミナーで実施する保健管理センターガイダンスにおいて、保健管理センター、学生相談室及びサポートルーム（障害学生支援室）の利用案内等、情報提供を行った。	
今後の計画	
今後も継続して情報提供を行う。	
改善状況を示す根拠資料	
資料21 H30初年次セミナープログラム 資料22 2018初年次セミナー（保健管理センターガイダンス）資料	

4. 学生	4.3 学生のカウンセリングと支援
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
・学生支援の仕組みを学生に十分周知させるべきである。	
改善状況	
初年次セミナーで実施する保健管理センターガイダンスにおいて、保健管理センター、学生相談室及びサポートルーム（障害学生支援室）の利用案内等、情報提供を行った。	
今後の計画	
引き続き、情報提供を行う。	
改善状況を示す根拠資料	
資料21 H30初年次セミナープログラム 資料22 2018初年次セミナー（保健管理センターガイダンス）	

4. 学生	4.4 学生の教育への参画
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
・カリキュラム委員会に学生が正規の委員として参加すべきである。	
改善状況	
<p>カリキュラム委員会の委員の構成として、医学科学生を追加するよう医学部医学科カリキュラム委員会細則の改正（案）を作成し、今後、速やかな改正に向けて手続きを行うこととする。</p> <p>カリキュラム委員会に各学年代表者の出席を求め、オブザーバーとして意見交換を行い、学生の意見をカリキュラムへ反映させる取り組みを開始した。</p>	
今後の計画	
<p>今後、細則の改正に向けて手続きを行うこととしている。</p> <p>今後は、学生がカリキュラム委員会に参加して発言等で実績を積み、さらに正式な形でカリキュラム委員会のメンバーとなっていく方向で、カリキュラム委員会細則の改正も含め、検討することとしている。</p>	
改善状況を示す根拠資料	
<p>資料6 岐阜大学医学部医学科カリキュラム委員会細則</p> <p>資料7 岐阜大学医学部医学科カリキュラム委員会細則の一部改正について（案）</p> <p>資料8 第3回医学科カリキュラム委員会 H29.11.29</p>	

5. 教員	5.1 募集と選抜方針
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
・入学定員数の増加に対応した教員の増員がなく、使命に沿った教育を実現するためには、発展的な工夫がなされるべきである。	
改善状況	
<p>本学では、全学の教育職員の採用及び弾力的配置に関する機能を担う教育研究院が平成29年4月に設置された。この制度を活用して、医学部では平成29年6月教授会で「岐阜大学医学部の教員組織の将来構想（案）」を承認し、当該グランドデザインに沿って、退職教授分野の存続、統廃合、公募時期、優先順位など検討し、「教育研究院」に対して要求していくことになっている。</p> <p>平成29年度は、医学部医学科と看護学科が各々で人事計画書を策定し、教育研究院に提出していたが、平成30年度は、医学系研究科・医学部として人事ポイントを合算（一本化）し、グランドデザインに沿った教員配置となるよう計画書を策定し、教育研究院に提出した。</p>	
今後の計画	
・医学系研究科・医学部将来計画委員会の下、各年度の人事計画書を策定する。	
改善状況を示す根拠資料	
資料23 教授会資料「岐阜大学医学部の教員組織の将来構想（案）」	

5. 教員	5.1 募集と選抜方針
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
・基礎医学、行動科学、社会医学の適正教員数を検討すべきである。	
改善状況	
<p>改善のための助言を踏まえ、「岐阜大学医学部の教員組織の将来構想（案）」を策定した。</p>	
今後の計画	
・医学系研究科・医学部将来計画委員会の下、各年度の人事計画書を策定する。	
改善状況を示す根拠資料	
資料23 教授会資料「岐阜大学医学部の教員組織の将来構想（案）」	

5. 教員	5.1 募集と選抜方針
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
・より多くの女性教員を採用し、活躍できる環境を整えるべきである。	
改善状況	
<p>「岐阜大学医学部の教員組織の将来構想（案）」の中で、女性教員（研究者）の確保を明記した。</p> <p>その結果、多様性に配慮した「人事計画書」を教育研究院へ提出したことで、医学科における女性教員の割合が 12.6%（9月時点）から 13.2%（3月時点）となった。</p> <p>また、岐阜大学医学部・附属病院女性医師就労支援の会が、毎年8月にキッズサマースクールを開催し、職員の子供を夏休みに預かる取り組みをしていたが、加えて平成30年度からは「夏休みお留守番部屋」を開設し、女性職員が夏休みの育児がしやすい環境を提供している。他にも、女性優先休憩室を医学部本館に設置するなど、女性が働きやすい環境を大学の課題として取り組んでいる。</p>	
今後の計画	
・女性教員（研究者）の確保に向けた取り組みを継続していく。	
改善状況を示す根拠資料	
<p>資料23 教授会資料：「岐阜大学医学部の教員組織の将来構想（案）」</p> <p>資料24 キッズサマースクールに係るチラシ</p> <p>資料25 夏休みお留守番部屋に係るチラシ</p>	

5. 教員	5.2 教員の活動と能力開発に関する方針
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
・個々の教員がカリキュラム全体を十分に理解するための仕組みを構築すべきである。そのために、教員の学内FDへの参加をさらに一層促進すべきである。	
改善状況	
<p>・新任教員・医員向けチューターFDを継続して実施した。</p> <p>・附属病院医師及び実習協力病院医師を対象とした臨床実習指導医FDを、附属病院医師育成推進センターと連携して、継続実施した。</p>	
今後の計画	
FDの内容、頻度、参加を促進するための方策について、教務厚生委員会で検討する予定。	
改善状況を示す根拠資料	
<p>資料26 初心者向けチューター研修会（FD）開催通知</p> <p>資料27 テュートリアルガイド（教員用2018）</p> <p>資料28 選択臨床実習FD・担当者説明会開催通知</p>	

6. 教育資源	6.1 施設・設備
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
・定員の増加にともなって狭隘化した講義室、実習室を早急に改善すべきである。	
改善状況	
学生定員増が決定した2008年から、講義室の改修、病院内の学生室確保、チュートリアル室の時間別使用、医学図書館の学習スペースなどの工夫に努めてきたが、やはり定員110名が限度であり、これ以上の定員増は考えていない。	
今後の計画	
医学部（医学科）の定員増は、地域枠による暫定的な増員である。岐阜県との協議においても、この先の増員は難しいため、現状の施設・設備の有効活用によって教育を維持する。	
改善状況を示す根拠資料	
資料29 平成31年度医学部入学定員増に関する意向調査	

6. 教育資源	6.2 臨床トレーニングの資源
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
・臨床実習ポートフォリオを活用して臨床実習において学生が経験した患者の数とカテゴリーを確実にモニタして、不足のないように経験症例を確保すべきである。	
改善状況	
臨床実習ポートフォリオに、受け持ち患者のリスト欄を設け、学生が経験した患者の数を把握することとした。	
今後の計画	
次回改定のポートフォリオには、カテゴリーで分類した経験症例数を診療科ごとに記載する項目を追加する。年度末に各科ごとに集計し、一覧を公表し、各診療科での経験症例数の増加を促す。	
改善状況を示す根拠資料	
資料30 臨床実習ポートフォリオにおける受け持ち患者リスト欄	

7. プログラム評価	7.1 プログラムのモニタと評価
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
<ul style="list-style-type: none"> ・教育成果を測定しようと入学者情報、初期体験実習、地域体験実習、チュートリアル、患者医師関係などの一部の科目でデータを収集しているが、6年一貫医学教育を通じて全てのカリキュラム構成要素でのデータを収集すべきである。 	
改善状況	
<p>学務システムのデータと、CBT、OSCE、臨床実習評価などの学務システム以外から得られるデータを連結することで、学生個々の歩みが分かり、かつ定期的に教育改善のための解析に利用できるデータセットを作成した。</p>	
今後の計画	
<p>各カリキュラム構成要素に関する学生評価は集まっているが、試験内容や質的データについては未収集である。今後は各部門に情報収集への協力を要請していきたい。</p>	
改善状況を示す根拠資料	
資料18 医学教育IR室データ取得の流れ	

7. プログラム評価	7.1 プログラムのモニタと評価
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
<ul style="list-style-type: none"> ・教育成果とその他のコンピテンシーである「達成すべき水準」を指標に、教育成果を定期的にモニタし、現行の教育での問題点とその解決策を策定するために医学教育 IR を活用して、教育改善を実現化するプログラムを作るべきである。 	
改善状況	
<p>医学教育 IR 室は 2016 年度から、岐阜大学医学部医学科が掲げるアウトカムに基づいたカリキュラムアンケートを作成し、卒業直前の 6 年生に対して施行してきた。</p> <p>また、卒業生に対しては、本学で学んだことがその後の医師生活で行かされているかを中心にしたインタビュー調査を試行的に行ってきた。それらの調査からは、卒業試験や PBL テュートリアル教育に関する意見や課題が多く挙がっていた。</p> <p>2015 年度及び 2016 年度の岐阜大学医学部医学科卒業生の医師国家試験合格率（新卒）の結果から、リサーチクエスチョンを「医師国家試験の合格に寄与する因子と改善」に設定し、合格率向上を目指すための多変量解析を行い、カリキュラムに関する評価の中で医師国家試験に関連する正の因子として、6 年次に行われる卒業試験と 4 年次に行われる CBT があることを導き出した。当解析結果から医師国家試験不合格のリスクが高いと判断した学生を教務厚生委員会でリストアップして、当該学生を個別指導するとともに、卒業試験および CBT に関する評価についての改革を行い、2018 年度より以下の取り組みを行うこととした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各科の卒業試験を統合し、単一の卒業試験として実施すること。 ・CBT に関して、「どのくらいの CBT の基準だと国家試験の合否可能性判定に効果的なのか」を医学教育 IR 室が解析したのち、CBT の合否基準に関する変更をおこなうこと。 	
今後の計画	
<p>2018 年度にはカリキュラム委員会からの要請に伴い、アンケートの対象を卒業生・教員・職員と幅広く捉えたカリキュラムアンケートを実施予定である</p>	
改善状況を示す根拠資料	
<ul style="list-style-type: none"> 資料31 国家試験多変量解析結果 2017年4月教授会資料 資料32 国家試験個人指導用分析 2017年7月教授会資料 資料15 卒業生の到達目標達成度アンケート 資料33 卒業生カリキュラムアンケート結果 	

7. プログラム評価	7.3 学生と卒業生の実績・成績
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
・2008 年度に初版を設定し、2015 年度に改定した教育成果を指標として、今後、学生の成果達成や、卒業生の活躍を医学教育 IR 室が収集・分析し、その分析結果をもとに教育プログラムの評価を行う責任を持つ委員会組織がカリキュラムの改定や教育資源の配分、提供を行っていくべきである。	
改善状況	
医学教育 IR 室を設置し、各種試験結果・卒後情報の収集と分析を行い、学修成果の達成度を評価するとともに、医師国家試験対策等にも資することとした。	
今後の計画	
医学教育 IR 室の機能を強化し、各種試験結果の分析を行い、その結果を企画委員会、教務厚生委員会等にフィードバックすることで、より効果的な医学教育の充実に資することとする。	
改善状況を示す根拠資料	
資料34 医師国家試験対策資料（教授会資料）	

7. プログラム評価	7.4 教育の協働者の関与
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
・教育プログラムのモニタとその分析に、学生、教員、医学部執行部が関与する体制を構築すべきである。そのために医学教育 IR 室が収集・分析したデータをもとに多くの関係者がプログラム評価に関わる議論を行う環境を作るべきである。	
改善状況	
2018 年度にテュートリアル教育改善対策作業部会がカリキュラム改革に関するリサーチクエストを決定し、医学教育 IR 室がテュートリアル教育改善対策作業部会とともにカリキュラムアンケートを作成した。	
今後の計画	
アンケートを実施し、当該の結果を医学教育 IR 室が解析する（カリキュラム委員会等に送付、カリキュラム改善計画を作成し、企画委員会にかける予定）	
改善状況を示す根拠資料	
資料2 テュートリアル教育に関するアンケート（学生、教員、卒業生、事務職員）	

8. 統轄および管理 運営	8.2 教学のリーダーシップ
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
・医学部長、教授会の権限のもと、教務厚生委員会が教育実践の最高執行機関になるようなリーダーシップを構築していくべきである。	
改善状況	
学部長のリーダーシップの下、教務構成委員会、カリキュラム委員会、入試委員会の構成メンバーの見直しを図り、医学教育開発研究センターに依存することなく医学部医学科としての教育実践組織を確立していくこととしている。	
今後の計画	
上記の取り組み例を踏まえ、医学教育 IR 室は執行機関からの依頼をより定期的・即時的に対応できるようにする。 また、医学部では教務厚生委員長が入試委員長を兼務しているため、業務過多となっており、次年度以降は委員長を別に選出し、二つの委員会の機能強化を図ることとする。	
改善状況を示す根拠資料	
資料35 CBT基準改革用資料 資料36 仮進級解析（2018年度4月教務厚生委員会） 資料37 留年と部活（2018年度4月教務厚生委員会）	

8. 統轄および管理 運営	8.3 教育予算と資源配分
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
・教育単位に配分されている教育予算が教育実施に適切に支出されているかどうか監査する機構を作るべきである。	
改善状況	
医学部長（研究科長）が主宰する企画委員会において、医学部予算（決算）案を審議し、教授会に諮り、承認を得ている。	
今後の計画	
引き続き、同様のシステムで運用していくこととする。	
改善状況を示す根拠資料	
資料38 平成30年度 医学研究科予算配分基礎資料	

今後改善が見込まれる項目

1. 使命と教育成果	1.4 教育成果
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
・卒業時の教育成果と初期臨床研修の到達目標の両者を関連づけることが望まれる。	
現在の状況	
卒業時の教育成果（アウトカム）と初期臨床研修目標の関連性について教務厚生委員会で対応表を作成し、平成29年4月の教授会で承認を得た。	
今後の計画	
今後は、シラバス・臨床実習ポートフォリオ等へ掲載し、周知を図る。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料39 卒前教育成果と初期臨床研修到達目標の対応表	

2. 教育プログラム	2.1 カリキュラムモデルと教育方法
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
・チュートリアルを中心とする自己主導型学習のモニタリング、評価を確実に行うことが望まれる。	
現在の状況	
医学生の評価はコアタイムにおいて、すべてのチューターがすべての学生に対して毎回出席・遅刻・早退とともに、形成的評価を行っている。	
今後の計画	
チューター評価を集計し、それをコースごとの評価に反映させる。 また、医学教育 IR 室において、評価方法について今後検討する。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料40 チューター評価集計表	

2. 教育プログラム	2.6 カリキュラム構造、構成と教育期間
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
<p>・医学教育企画評価室、カリキュラム委員会及び教務厚生委員会がリーダーシップをとり、関連する学習項目について水平的統合及び縦断的統合を促進することが期待される。</p>	
現在の状況	
<p>学部長のリーダーシップの下、教務構成委員会、カリキュラム委員会、入試委員会の構成メンバーの見直しを図り、医学教育開発研究センターに依存することなく医学部医学科としての教育実践組織を確立していくこととしている。</p> <p>臨床推論・西洋医学的アプローチコース（4年次、3週間）にて、多職種連携在宅医療模擬カンファレンス（岐阜大学、平成医療短期大学、岐阜薬科大学合同）を実施し、統合的・包括的な授業を継続して実施している。</p>	
今後の計画	
<p>医学部では教務厚生委員長が入試委員長を兼務しているため、業務過多となっており、次年度以降は委員長を別に出し、二つの委員会の機能強化を図ることとする。</p> <p>現行のテュートリアル教育の在り方と見直しを検討するため、教務厚生委員会の下にテュートリアル教育改善対策作業部会を発足させ、作業部会を開催した。教職員、学生及び卒業生に対してテュートリアル教育についてのアンケートを実施することから、その結果を踏まえて、教育内容の統合についても検討する。</p>	
現在の状況を示す根拠資料	
<p>資料1 第1回及び第2回テュートリアル教育改善対策作業部会記録</p> <p>資料41 2018授業案内上巻（臨床推論・西洋医学）</p> <p>資料42 他職種メディカルケアチーム医療教育</p>	

2. 教育プログラム	2.6 カリキュラム構造、構成と教育期間
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
・補完医療に関する教育内容の充実化が望まれる。	
現在の状況	
臨床推論・東洋医学的アプローチコース(4年次、1週間)の授業に、「漢方のEBM」、「漢方薬を煎じてみよう」など、最近のトピックスや実践的な内容を導入し、臨床各科での応用例を多数示すなど、臨床実習に直結する授業として改善に努めている。	
今後の計画	
引き続き、最近のトピックスや実践的な内容を導入することで、臨床授業の充実を図っていく。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料43 2018授業案内上巻(臨床推論・東洋医学)	

2. 教育プログラム	2.7 プログラム管理
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
・カリキュラム委員会に他の教育の関係者を含むことが望まれる。	
現在の状況	
カリキュラム委員会に学生を構成員として参加させるよう「医学部・医学科カリキュラム委員会細則」の改正を準備中。 他の教育の関係者の参加については、今後検討の予定である。	
今後の計画	
カリキュラム委員会委員の他の教育関係者の参加について、今後検討する。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料6 岐阜大学医学部医学科カリキュラム委員会細則 資料7 岐阜大学医学部医学科カリキュラム委員会細則の一部改正について(案)	

3. 学生評価	3.1 評価方法
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
・全ての試験で評価の妥当性と信頼性を検証することが望まれる。	
現在の状況	
<p>平成 30 年度授業案内（上巻）には、明確な評価基準及びオフィスアワーに関する記述を掲載するように、各授業担当者へ依頼した。</p> <p>成績評価に対する異議申立として、まずは不合格科目についての異議申立制度を設け、対象者へ案内した。医学教育 IR 室において、各種試験結果の分析を行い、総合的学力と学習参加度から学生の傾向を分析している。今後、個別科目の試験問題についても分析を行い、評価実施過程が適切に質保証されているか分析することとしている。</p>	
今後の計画	
<p>平成 31 年度授業案内（上巻）作成に際しては、明確な評価基準の掲載を徹底するため、授業案内作成開始に先立って、評価基準に関する部分のみ、事前に授業担当者へ原稿作成を依頼した。異議申立制度については、今後規定等の整備を行う。また、平成 30 年度から、5、6 年生を対象とした医学部統合試験を実施することとしており、実施後、検証することとする。</p>	
現在の状況を示す根拠資料	
<p>資料11 平成30年度授業案内（上巻）作成時のお願い</p> <p>資料12 医学科科目異議申立書</p> <p>資料13 授業案内（上巻）の評価基準の明確化について（依頼）</p>	

3. 学生評価	3.2 評価と学習との関連
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
・ 段階的な態度評価を充実し、personal growth を促進することが望まれる。	
現在の状況	
各学年で部分的なポートフォリオが導入され、段階的な態度評価は少しずつ導入されている。	
今後の計画	
各学年のポートフォリオを統合化して、6年一貫の態度評価にしていく。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料44 電子ポートフォリオ（ホームページから） 資料45 臨床実習ポートフォリオ	

3. 学生評価	3.2 評価と学習との関連
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
・ 定量的評価だけでなく、定性的評価も合わせて教育成果を測定することが望まれる。	
現在の状況	
各学年で部分的なポートフォリオが導入され、定性的な評価は少しずつ導入されている。	
今後の計画	
各学年のポートフォリオを統合化して、6年一貫の定性的評価にしていく。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料44 電子ポートフォリオ（ホームページから） 資料45 臨床実習ポートフォリオ	

4. 学生	4.1 入学方針と入学選抜
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
・地域に根ざした教育が基本方針として明記されていることの周知を図ることが望まれる。	
現在の状況	
2016年度に医学部憲章と3つのポリシーの改定作業を行い、その作業を通じて関係教員に周知を図った。また、学生に対しては新しいポリシーを2017年度のシラバスから反映させ、周知することとした。併せて、これについてはホームページに掲載し、周知している。	
今後の計画	
引き続き、新規採用教員に対しては、教員FD研修会等において、また、学生に対しては、シラバスに掲載することにより、周知を図る。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料27 テュートリアルガイド（教員用2018） ホームページURL： 医学部憲章： http://www.med.gifu-u.ac.jp/kenshou.html アドミッション・ポリシー： http://www.med.gifu-u.ac.jp/med/index.html カリキュラムポリシー： http://www.med.gifu-u.ac.jp/med/curriculum.html ディプロマポリシー： http://www.med.gifu-u.ac.jp/med/diploma.html	

4. 学生	4.2 学生の受け入れ
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
・ 地域や社会のニーズが教育カリキュラムに反映されるようなシステムを作ることが望まれる。	
現在の状況	
<p>平成 29 年度で終了する予定であった地域枠暫定定員（15 名）については、岐阜県では依然として医師不足が続いていることから、岐阜県健康福祉部の合意を得て、文部科学省からの「医学部入学定員増に関する意向調査」で 2 年間（平成 30 年度、平成 31 年度）の延長申請を行い、これが承認された。</p> <p>また、平成 28 年 12 月に医学部内に設置した医学教育 IR 室にて、これまで医学部医学科が実施した入試改革（後期シフト、面接導入）の分析結果を平成 30 年 3 月教授会で報告し、意見交換を行った。</p>	
今後の計画	
<p>地域や社会のニーズを把握しつつ、医学教育 IR 室の分析結果を基に、医学部医学科の募集定員と入学者選抜方法の見直し案について、本年度中に入試委員会で取りまとめ、教授会に諮ることとしたい。</p>	
現在の状況を示す根拠資料	
<p>資料29 平成 3 1 年度医学部入学定員増に関する意向調査 資料47 医学部の収容定員の増加について（通知）</p>	

4. 学生	4.3 学生のカウンセリングと支援
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
・多くのカウンセリングは教務厚生委員長が一人で行っており、システムとして体系的に行うことが望まれる。	
現在の状況	
カウンセリングについては、現状では教務厚生委員長が一人で行っているが、教務厚生委員長としての業務負荷がかかっており、その負担軽減を図るために、教務委員長、教務主任、前教務厚生委員長等経験者が面談を行う体系的に行うこととしている。	
今後の計画	
引き続き、効果的な学生支援に努めていくこととする。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料48 医師国家試験高リスク者面談資料（5年12月版）【教務主任用】	

4. 学生	4.3 学生のカウンセリングと支援
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
・キャリアガイダンスが高学年の地域枠学生に重点が置かれており、低学年から高学年に渡ってすべての学生に機会を提供することが望まれる。	
現在の状況	
キャリアガイダンスについては、初年次セミナー（入学時）、医学概論（1年次）、地域医療課外ゼミ（全学年対象）等でキャリアに関する授業・セッションを行っている。また、里親制度を活用し、すべての学生に対して、カウンセリング対応の体制を整備している。	
今後の計画	
地域医療課外ゼミは、2008年度の地域枠入試の導入以来継続的に実施してきたもので、地域医療の魅力を伝え、国際的視野を広げることを目的としており、今後、次世代地域リーダー育成プログラムや正規授業への発展を検討している。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料21 H30初年次セミナープログラム	
資料49 キャリアガイダンス関連資料（医学概論）	
資料50 キャリアガイダンス関連資料（地域医療課外ゼミ）	

4. 学生	4.4 学生の教育への参画
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
・自治会活動以外にも学生のボランティア活動や社会的活動を大学が支援することが望まれる。	
現在の状況	
自治会活動以外にも、岐阜救急医療学生研究会、奥穂高夏山診療所クラブ、GIFMSA（国際医学生連盟岐阜）、熱帯医療研究会、ぎふ医療ケアサークルなどのボランティア活動を支援している。また、部局間学術交流協定校である忠北大学（韓国）の学生とは毎年 10 名程度が相互訪問して交流を進めており、学部として支援を継続している。さらに、学生研究員制度として、毎年約 30 名程度の学生に対し研究活動を行うことを支援し、学会発表や自主研究に対する支援を行っている。	
今後の計画	
引き続き、上記の支援を継続して行うこととする。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料51 忠北大学（韓国）との交流実績 資料52 岐阜大学奥穂高岳夏山診療所募集チラシ 資料53 奥穂高岳夏山診療所参加者実績	

5. 教員	5.1 募集と選抜方針
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
・教員の教育への貢献がより適正に評価されることが望まれる。	
現在の状況	
<p>・教育職員個人評価で使用する「貢献度実績・自己評価表」について、教員からの要望を受け、教育への貢献がより適正に評価できるよう平成 30 年度から部局項目として新たに5つの項目を追加した。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 医学部生の研究室実習の担当受入れ人数 ② テューター担当日数 ③ 学位審査（博士） ④ ポリクリ学生、研修医への教育、指導人数 ⑤ 学生研究員の受入れ（指導）数 	
今後の計画	
平成 30 年度教育職員個人評価結果を検証する。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料54 平成30年度教育職員個人評価について 2018年7月自己評価委員会資料	

6. 教育資源	6.1 施設・設備
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
・施設、設備の定期的修繕・拡張のために計画的で安定した予算の確保が期待される。	
現在の状況	
<p>教育関係予算は、教務厚生委員会、入試委員会、カリキュラム委員会の当該年度の事業計画に沿って当初予算を計上し、企画委員会並びに教授会の承認を得て確保している。因みに、大学本部から示達された平成30年度運営費交付金は減額されていたが、平成30年度の教育関係予算は、前年度より百万円増額（12,500千円→13,500千円）することができた。</p> <p>また、施設、設備の修繕に係る予算は、見積額が高額となる案件は、例年のように大学本部（政策経費）に要求し、低額な案件については、医学部運営経費の中で、計画的に改修・更新を図っている。</p>	
今後の計画	
引き続き、同様な予算制度の中で、教育関係予算（施設・設備修繕費含む）の確保に努めていきたい。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料55 大型教育設備 年度別整備計画表（一部抜粋）	

6. 教育資源	6.2 臨床トレーニングの資源
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
・医学部全体として臨床トレーニング用施設のさらなる整備拡充に取り組むことが望まれる。	
現在の状況	
<p>スキルラボを設置し、模擬診察室のモニタリングシステム、各種シミュレーターを整備しており、臨床実習中のシミュレーション教育としては、診療科の各ローテーションごとに心音・肺音・採血・静脈確保・腰椎穿刺・気道確保・各種エコー（腹部・心臓・胎児）・腹腔鏡・内視鏡・マイクロサージャリーなどのセッションを組み込んでいる。</p>	
今後の計画	
整備に係る経費、スペース等の問題を検討し、更なる整備拡充に努めたい。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料5 スキルス・ラボ設置のシミュレーター等一覧	

6. 教育資源	6.3 情報通信技術
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
・ ICT を活用して授業効果を高めることが望まれる。	
現在の状況	
地域体験実習（1年次）、医療面接実習（5年次）では、振り返りを学生が入力し、教員からフィードバックを受ける電子ポートフォリオを導入している。 2017年度からは、海外臨床実習生に対する電子ポートフォリオ導入した。	
今後の計画	
引き続き、運用し検証する。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料44 電子ポートフォリオ（ホームページから） 資料46 電子ポートフォリオ（海外臨床実習プログラムガイダンスブック（抜粋））	

6. 教育資源	6.3 情報通信技術
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
・ さらに、ICT を活用した自己学習を促進し、生涯学習する能力を涵養することが望まれる。	
現在の状況	
PBL において自己学習を保証するために、学内 LAN、e-ラーニング教材（共用試験デモビデオ、医療面接、身体診察、医療英語などの動画）などが利用できる。	
今後の計画	
引き続き、運用し検証する。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料56 e-ラーニング教材 ホームページURL : https://www1.medc.gifu-u.ac.jp/tutorial/	

6. 教育資源	6.3 情報通信技術
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
・ 学生が臨床実習で多くのことが学べるように、電子カルテのより有効な教育的利用が望まれる。それに伴って、個人情報管理の教育を充実すべきである。	
現在の状況	
定期的に電子カルテシステムの更新を行っており、それに伴い、学生に対して、電子カルテシステム運用指針を定めた。また、不正使用に係る処分方針についても定めた。また、LMS を利用し、Web 上で個人情報の取扱いに関する講習を受講させている。	
今後の計画	
引き続き、電子カルテシステムの適切な運用及び個人情報の取扱いの徹底を図る。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料57 学生の電子カルテ使用に関する指針 資料58 診療情報の不正使用に関する処分について	

6. 教育資源	6.4 医学研究と学識
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
・ 学生研究員制度の対象者と支援内容を拡充し、さらなる発展が望まれる。	
現在の状況	
学生研究員制度については、今後も継続の予定であり、この活動をさらに奨励するために、学生が自主的に企画した研究に対して 10 万円の研究資金を提供する制度、また、研究成果を学会発表する場合、10 万円を上限として旅費を支給する制度も併せて実施している。	
今後の計画	
学生研究員制度を継続させるとともに、充実を図っていく。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料59 学生研究員募集要項及び実績 資料60 学部学生の企画・計画する研究支援応募要項 資料61 学部生の学会発表支援にかかる取扱要項	

7. プログラム評価	7.1 プログラムのモニタと評価
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
・昭和19年に設置され、その後、岐阜県の医療と医学の進歩に貢献してきた歴史を振り返りつつ、医学部のミッションを今後も再検討し、再検討した観点に立って教育プログラムを常に見直し続けていくことが望まれる。	
現在の状況	
プログラムの定期的な見直しに関しては、学務係とイントラネットでファイル共有をおこなうことで、セキュリティ管理をしながら、データセットの即時的蓄積に取り組んでいる。	
今後の計画	
引き続き、教育プログラムの検証を行っていく。	
現在の状況を示す根拠資料	

7. プログラム評価	7.1 プログラムのモニタと評価
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
・医学部社会貢献基本戦略が教職員に十分に周知されておらず、活用されていない。この医学部社会貢献基本戦略を見直し、それを基に社会的責任を果たすために、教育プログラムを見直していくことが望まれる。	
現在の状況	
基本戦略2（地域政策への貢献）において、卒業生の進路分析を進め、海外臨床実習プログラムを含めた選択臨床実習がその後の進路に大きな影響を与えていることが示唆された。	
今後の計画	
基本戦略3（地域教育と文化への貢献）における取り組みを検討中である。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料62 卒業生の進路分析（第49回医学教育学会大会） 資料63 海外臨床実習分析（AMEE2017）	

7. プログラム評価	7.2 教員と学生からのフィードバック
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
・学生、教員からの教育プログラムへの意見を集め、それを分析し、現行のプログラムの問題点を抽出し、プログラム改善に資することが望まれる。	
現在の状況	
教員、卒業生、在学生に対してテュートリアル教育に係るアンケートを実施し、アンケート結果を分析し、現行の問題点等を抽出する予定。	
今後の計画	
アンケート結果を医学教育 IR 室において分析し、課題等を抽出し、改善につなげていく。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料1 第1回及び第2回テュートリアル教育改善対策作業部会記録 資料2 テュートリアル教育に関するアンケート（学生、教員、卒業生、事務職員）	

7. プログラム評価	7.3 学生と卒業生の実績・成績
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
・卒業生のアンケートを継続し、そのデータを入学者選抜、カリキュラム改訂、学生支援に活かすことが望まれる。	
現在の状況	
卒業生アンケートは2016年より始まり、2017年も継続して実施されている。	
今後の計画	
2018年は対象を学生・卒業生・教職員に広げて実施予定である。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料15 卒業生の到達目標達成度アンケート	

7. プログラム評価	7.3 学生と卒業生の実績・成績
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
・学生の教育成果の達成度を測定し、そのデータを基に入学者選抜、カリキュラム改訂、学生支援に活かすことが望まれる。	
現在の状況	
医学教育 IR 室を設置し、当該室において分析した各種結果（総括試験分析、留年・国家試験不合格者、卒業生アンケート、卒業生の進路等）を、教授会、企画委員会、教務厚生委員会、カリキュラム委員会、入試委員会等にフィードバックし、入試・カリキュラム改革等に活かしていく。	
今後の計画	
引き続き、医学教育 IR 室において、各種データの分析を行い、各種委員会にフィードバックし、入試・カリキュラム改革等に活かしていくこととしている。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料64 医学教育IR室細則	
資料65 平成30年度第1回医学教育IR室会議レジュメ	

7. プログラム評価	7.4 教育の協働者の関与
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
<ul style="list-style-type: none"> ・プログラムの評価に関する IR データ、分析結果を他の教育の協働者に閲覧し、カリキュラム改善の意見を集めることが望まれる。 	
現在の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・プログラムの評価結果は各委員会で意見交換され、重要なものについては教授会においても議論されてきたが、組織的な情報の共有や情報発信は行われていない。 ・卒業後の業績に関する協働者からのフィードバックは、県内機関については一部できていたが不十分であり、長期的・全国的な卒業生の業績は十分把握できていなかった。 ・分析結果は、各種委員会に送付するだけでなく、学会発表や論文として発表しており、教育の協働者や社会に広く周知するよう努めている。 	
今後の計画	
<p>医学教育 IR 室による分析結果等（統合試験分析、留年・医師国家試験不合格者、卒業生アンケート、卒業生の進路、教員アンケート等）については、企画委員会、教授会、教務厚生委員会等にフィードバックされ、議論されている。今後も引き続き、フィードバックされた分析結果等について、所掌の委員会等で検討を進め、折に触れて、他の教育者からの意見聴取に役立てることとしたい。</p> <p>また、IR 資料を基にしたリーフレット、あるいは市民に対する出前講義を検討している</p>	
現在の状況を示す根拠資料	
<p>資料62 卒業生の進路分析（第49回医学教育学会大会）</p> <p>資料63 海外臨床実習分析（AMEE2017）</p>	

8. 統轄および管理運営	8.3 教育予算と資源配分
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
・ポイント制度の運用が実質的に困難となっている。この状況を改善することが望まれる。	
現在の状況	
<p>平成 28 年 12 月に医学部長直轄で設置された「将来構想検討部会」から学部長に提出された答申書を基に、医学科将来計画委員会で「岐阜大学医学部の教員組織の将来構想（案）」を策定し、平成 29 年 6 月教授会で審議され、これを承認した。これに基づき、平成 29 年度に大学本部に設置された教育研究院に教員を要求できる体制になっている。</p> <p>従前は、医学科と看護学科が独立してポイントを有していたが、今後は医学部（医学科・看護学科）全体としてポイントを弾力的に運用できるように改善された。</p>	
今後の計画	
・今後は、岐阜大学医学部の教員組織の将来構想に沿って、教育研究院に対して人事計画書を提出する。	
現在の状況を示す根拠資料	
<p>資料66 将来構想検討部会（医学部ランドデザイン検討部会）答申書</p> <p>資料23 教授会資料「岐阜大学医学部の教員組織の将来構想（案）」</p>	